

---

---

事業報告

---

---

平成20年度  
公開講座概要

総合研究所では、毎年、生涯学習の実践・研究成果の公開・大学の地域への開放という観点から、地域社会との協力関係の構築をめざし「公開講座」を開催しています。

「公開講座」は、(1) 本学が企画・共催 (2) 自治体等との協力 (3) 産官学連携事業で行なっています。詳細については、下記をご参照ください。

【(1) に分類される講座】

〈1〉 第29回 せいぶ市民カレッジ 奈良大学文化講座

〈開講年〉1980年

〈テーマ〉温故知新

〈募集定員〉300人（全5回）

〈会場〉学園前ホール

〈共催〉西部公民館・奈良大学

7月5日

歴史の材料

－日本書紀・木簡・日記－

寺崎保広

歴史を研究する際に最も大事な材料となるのが史料である。史料とは、古い時代に書かれた文字資料で、さまざまな種類がある。今回は、日本古代の史料について、内容によって分類しながら概観した。その分類は次の通りである。

- ① 正史。国の正式な歴史書のことで、日本書紀以下六つの正史がまとめられた。
- ② 法令集。法や命令をまとめたもので、律・令・格・式の四種類ある。
- ③ 文学作品など。万葉集、懐風藻、日本書紀など、文学作品も歴史の史料として使うことができる。
- ④ その他。金石文、古文書、日記、木簡、墨書土器など、①～③以外のもの。

これらは、内容・目的・素材も異なるし、史料としての性格もさまざまである。たとえば、①～③はそれぞれが目的があって本として編纂され、多くの人々が利用した後に後世に伝えられたのに対して、④の古文書や木簡などは、当時の必要におうじて使用された後、用済みとなって廃棄

されたものが偶然にも残ったものである。

そうした性格の違いを認識しつつ、各種の史料を併用しながら、歴史像を組み立ててゆくのである。

7月19日

## 手紙で読む「芭蕉」

永井一彰

手紙は日記と共にその人物の私生活・ひととなりを知ることに出来る第一級の資料である。昨年度は以前に私が発見した蕪村晩年の手紙を取り上げて、経済観念に乏しいけれども楽しげな彼の暮らしぶり、またそこから導かれる芸術家としての資質について考えてみた。本年のこの講座では、芭蕉の兄である松尾半左衛門宛の芭蕉書簡4通を取り上げ、そこから兄半左衛門・姉・妹など芭蕉の実家の人々の暮らしぶりを読み取ると共に、同じ伊賀上野に住む門人たちには嬉々として俳諧のことを語る芭蕉が兄に宛てた手紙の中では全くそのことに触れないのは何故かを考え、俳諧という文藝のあり方に及んだ。

8月2日

## 古都北京と日本人

森田憲司

2008年8月オリンピックが開催される北京は、明清王朝の名残を残し、独特の歴史的雰囲気を持っている。この講演では、まず城壁都市北京の歴史を概観し、さらに、北京と日本人とのかかわりの歴史を、次の点にポイントを置き、関係資料の画像を紹介しつつ、述べていった。

まず、前史として、日本人と「北京」とのかかわりのはじまりとしての入元僧、ついで江戸時代の琉球使節の記録の中にも、北京訪問の記事が見えることを紹介した。ついで、明治以降の日本人の中国紀行とそのおもしろさを、とくに日清戦争以前の北京紀行を材料として述べるとともに、明治の在燕邦人の活動記録である雑誌『燕塵』を紹介した。最後に、大正から昭和にかけての日本人社会の姿を、「老北京」と呼ばれる人々、中野江漢、石橋丑雄、高木健夫を通じて述べた。

9月6日

## 薬師寺と平城遷都

東野治之

現在奈良市の西ノ京にある薬師寺は、奈良時代前半の建立になる東塔を残していることで有名であるが、もとは天武天皇がその妻持統天皇の病氣平癒を願って、飛鳥地域（現在の橿原市）に創建した寺である。その本尊は薬師如来であるが、現在西ノ京の寺にある本尊が創建時以来のものかどうかを巡って長い論争の歴史があり、その背景には、薬師寺の建物や仏像が、平城京遷都

に当たって移転したと見るか、平城京で新たに造営されたと考えるかで、意見が分かれているという事情がある。この講座ではその問題を取り上げ、まず飛鳥の諸大寺が平城遷都の際、どのように扱われたかを、飛鳥寺、大官大寺、弘福寺のそれぞれについて説明し、それを踏まえて、薬師寺のように飛鳥の旧寺を平城京の新寺が管理した例はなく、飛鳥の旧寺は寺院としての機能を持っていなかったことを明らかにし、本尊は飛鳥から移されたと考えられることを述べた。

9月20日

## ヤマタノオロチは殺されてよかったか －日本の風景の深層を考える－

堀 信 行

『古事記』のヤマタノオロチ（以下オロチ）の物語は、日本の原風景の空間構成とその成立の背景を知る重要な資料である（『水の原風景』TOTO出版、1982刊行の所収論文参照）。オロチは檜と栴や苔で覆われた山体であり、谷を含む自然空間の象徴であった。オロチ本来の機能は、毎年定期的に水田を象徴する地母神としての八女を訪れ、種としてのオロチと交わることであった。それによって稲は生育し、米の収穫ができた。そこへスサノオノミコトが登場し、クシナダヒメと結ばれ、オロチの目的を奪った。そこでスサノオノミコトはクシナダヒメと同等の濃い酒を用意させ、オロチはその酒を満足して飲み、眠った。スサノオノミコトはオロチを切り殺し、中の尾から自然の霊力の象徴たる草薙の太刀を取り出した。オロチの死によって自然に対する畏怖心は衰え、スサノオノミコトは自然空間の象徴としての神社に納まってオロチの役割を果たすものの、開発によって自然空間の奥山は失われていった。

## 〈2〉第4回 高の原カルチャーサロン 奈良大学心理学講座・地理学講座

《開講年》2005年

《テーマ》前期：心理学からみた人間と社会 後期：地球発見

《募集定員》200人（全6回）

《会場》奈良市北部会館市民文化ホール

《共催》（財）奈良市文化振興センター・奈良大学

5月17日

## 人間の変化と発達のプロセスとは －発達臨床心理学からのアプローチ－

千 原 美重子

発達臨床心理学とは、胎生期から老年期までの発達過程で生じるさまざまな危機的問題に対して、いかに理解し、支援・援助できるかを体系的に考慮し、実践することを目指している。事例

を通して、発達臨床心理学的アプローチについて説明させていただいた。

事例として、①高校中退し、17年間引きこもった後に、ヘルパー 2 級を取得し、39歳で大学を目指している事例と、②狼に育てられたカマラの例を挙げ、こうした条件でいかに人は変化発達することが出来るのかについて考察をした。①の事例では、よい子であったがしつけが厳しく、家では心が安心できず、学校ではいじめがありびくびくしていたとき、成績が下がり、今までの自尊感情を喪失してしまったことが契機として考えられる。しかし、父親の介護や友達を支える体験で自己の存在価値に気づき、自分らしい生き方を物語る事が出来るようになったことが変化・発達の要因と思われる。②の事例でも、スキンシップなどのかかわりを通して徐々に集団への所属を感じ、人との愛着が形成でき、3 語文まで獲得してきたのである。人は、安心・安全のニーズや、集団所属、自尊感情のニーズを満たすことで、本来の個性化を実現できることを考察した。

危機とは、人間的なとき、分岐点、峠という意味を持つ。危機状態の分析をし、社会的資源を生かし、焦らずじっくりと取り組むことで、人間の変化・発達のプロセスを開くことが出来ることについて、フォーカシングの演習や多様な自己実現などの例を示して説明をした。

5月24日

## 情報化社会の便利さがもたらす息苦しさ

ト 部 敬 康

情報化社会は私たちの生活を飛躍的に便利にした反面、その便利さゆえに私たちが「自らの首を絞めている」かのように息苦しくなっている側面も無視できない。その例として、携帯電話や電子メール、インターネットの利便性が生み出した「忙しさ」や「息苦しさ」について述べた。そして、なぜそのようなことが起こるかについて、同調行動の理論と社会的交換理論を用いて分析を試みた。それをふまえて、私たちが情報化社会の便利さを活かしながらもそれに伴う「忙しさ」や「息苦しさ」を軽減するために必要なことについて考察、提言して、むすびとした。

5月31日

## 「絆」の心理学

－自分はどうのように人と繋がっているのか－

ハフシ・メッド

本講演の主要なテーマは、人間の繋がり方のパターン、あるいはWilfred Bionの言う「原子価」である。Bionは、化学から「原子価」という概念を借用し、人間の対人関係や、個人とグループとの結合の説明を試みた。即ち、彼は、人間が原子と同様に原子価を持ち、原子同士のようにその原子価によって結合すると考えた。原子価には、「依存」、「闘争」、「逃避」、「つがい」の4つのタイプがあり、それぞれには異なった対人関係的な特徴がある。更に、人はすべての原子価タイプを示すことができるが、一つの主要なもの（活動的原子価）をもっている。活動的原子価以外のものは「補助的原子価」と呼ばれ、前者によって対象と繋がることのできない場合に用いられる。

人は生きている限り原子価を発揮するが、必ずしもそれによって対象と繋がることはできないとは限らない。その理由は、原子価の性質にある。他者との繋がりを可能にしない原子価を「マイナス原子価」とよび、本講演でもこれについて言及している。

10月4日

## 南米・ガラパゴス諸島とパンタナール

高橋 春成

ガラパゴス諸島は、ダーウィンの進化論の島としてつとに有名である。1978年に世界自然遺産に指定された。ここでは、火山島であるガラパゴス諸島に流れついたり運ばれてきた動植物が長い年月をかけて独自の進化をとげてきたが、人の手によって持ち込まれたクマネズミ、ネコ、ブタ、イヌ、ヤギなどが侵入したり野生化している問題が生じている。

ブラジル・ボリビア・パラグアイにまたがるパンタナール大湿原もまた世界自然遺産である。2000年に指定されたが、ここは熱帯のサバンナ地帯で、ウシの放牧地として利用されてきたところである。牧畜の振興のために整備されたトランスパンタネイラといわれる道路によって、エコツーリズムも盛んになっている。

ガラパゴスもパンタナールも、奈良大学の地理学科の海外研修で学生たちと訪れたところだ。上に述べたようなことを、学生たちと一緒に学んできた。

10月11日

## サハリン（樺太）とアムール（黒龍江）

三木 理史

本講座では、Ⅰ. 近くて遠いアジア・Ⅱ. 国境をめぐる・Ⅲ. 樺太とサハリン・Ⅳ. サハリンとアムール（黒龍江）の4部構成で、近年関心の高まっているアジア地域のなかで、意識されることの少ない北東アジアを歴史的視点も交えつつ講演した。その際、北東アジアを理解する鍵となる「国境」に着目し、日本周辺で特徴的な陸上国境の現状を紹介しながら、サハリン（樺太）を考える糸口とした。それをもとにサハリン(樺太)の現状を、スライドで紹介した。また、近藤重蔵製作の地図でサハリン島が、南の半島である「カラフト」と北の島である「サカリン」に分けて描写されている事実から、その島が南北で大きく異なる地域性を有することを指摘した。また、日本およびロシアにとっての「植民地」であった点からアムール川上流域にある「満洲」との関係にも着目し、その比較を行いながら「植民地」という経験が、これらの地域の現状に与える影響も考えてみた。

10月18日

## アフリカ、サバンナにおける 天と喧嘩した樹と農民の交流

堀 信 行

アフリカのサバンナ地域に不思議なアカシア・アルビダ (*Acacia albida*) あるいはファイデルビア・アルビダ (*Faidherbia albida*) ともいわれるマメ科の樹が広く分布する。サバンナの気候は雨季と乾季が繰り返す。通常の樹木は、雨季に生い茂り乾季に落葉する。ところがこの樹だけは、乾季に葉をつけ雨季に落葉する「魔法の樹」で、自然の恩恵に浴さない「天と喧嘩した樹」と呼ばれる。農民はこの樹の特性に注目し独特の農法を生みだした。暑く日照りの続く乾季にこの樹だけが青々と茂り木陰をつくるので、人間も家畜もこの樹の下に集い飲食する。樹上では生い茂る幹枝に繁殖した虫類を餌に鳥類が営巣するため、鳥類の糞尿が樹下に堆積する。雨季に入るとこの樹の周りは一変して畑となり、農民はミレットなどの種を播く。雨季に落葉するためこの樹の周りにも直射日光が地面にあたり、作物の成長を促す。雨季に散り積もった落葉や乾季の中の糞尿などが雨季の雨と相まって肥料となる。一方この樹には精霊がいるとされ敬い怖れられ、その霊力によって農耕が展開している。

### 〈3〉 第2回 上方文化講座

〈開 講 年〉2007年

〈テ ー マ〉古代の奈良を探る

〈募集定員〉180名 (全2回)

〈会 場〉大阪府立文化情報センター

〈主 催〉奈良大学

〈共 催〉大阪府立文化情報センター

11月29日

## 聖徳太子と昭和の紙幣

東 野 治 之

聖徳太子の半身像を入れた高額紙幣は、ある世代以上の日本人になじみが深い。古代の偉人としての聖徳太子を広く認識させる上で、紙幣の果たした役割は少なくないといえよう。この講座では、紙幣の肖像の典拠が、法隆寺に伝来し、現在御物となっている画像にあること、その制作年代については奈良時代とする通説のほかに、平安時代後期とする意見もあって、現時点では明確にできないことを紹介した。その上で、この肖像が昭和5年(1930)に最高額の紙幣に採用された経緯や、それが他の紙幣肖像と異なって、戦後にも継承された事実を説明し、その背景に大正10年(1921)に皇太子で摂政となった昭和天皇のイメージが、聖徳太子に重ねられた側面のあること、戦後に生き延びた、平和的文化人という太子の人物像が、象徴としての昭和天皇に連動

するところがあったことなどを指摘し、古代の人物を考えるにも、近代以降の評価に留意する必要があることを述べた。

12月6日

## 正倉院宝物の魅力と謎

三宅久雄

正倉院宝物は、光明皇太后が亡き夫聖武天皇の遺品を東大寺に献納したことにはじまる。ただ、これらは約9000点にのぼる正倉院宝物の一部である。宝物全体についてはいろいろな分類の仕方が行われているが、由来によって大きく分けると、東大寺大仏への献納品、東大寺の物品、造東大寺司の物品の3つに分けることができる。

有名な正倉院宝物には五絃琵琶、鳥毛立女屏風などがあるが、それらには制作の時期や由来などが明らかな宝物も多く、献納目録に記載の宝物や銘文を有するものなど、学術的な価値は高い。一方、美術的に優れた品であっても、用途や構造技法などが不明で、謎につつまれたままの宝物もまだまだある。また色調に着目すると、天平というイメージから緑や赤の縹緗の濃厚な鮮やかさが目に浮かぶが、これとは対照的に、白や銀を基調とした清楚な趣の一群がある。そして、これら正倉院宝物を守ってきた校倉についてはまだ解っていないところも多く、また細部の美的特色は意外に知られていない。

## 〈4〉第8回 世界遺産公開講座

〈開講年〉2001年

〈テーマ〉世界遺産とその周辺

〈募集定員〉100名（全6回）

〈会場〉なら奈良館

〈共催〉なら奈良館・奈良大学

4月13日

## 奈良の歴史と世界遺産

鎌田道隆

奈良の世界遺産は、1300年にわたる奈良の歴史のなかで建築され、営まれて、人々の生活に深くかかわってきたことを確認しながら展開した。そして、奈良の文化財が世界遺産に登録される過程のなかで、大事な二つの世界遺産に関する国際会議での奈良宣言があったことも注目した。1994年の奈良宣言では遺産の真正性ということが問題となり、木造建築の修理・補修が厳密な技と材料で営まれてきた奈良の文化財が高く評価されたこと、2004年の国際会議奈良宣言では、無形遺産の世界遺産登録が必要であるとの、奈良からの発信が国際的に同意されたことなど、世界

遺産の考え方を高めていく役割が、奈良の歴史から可能となったのである。しかも、現代に伝えられている奈良の世界遺産はいずれも江戸時代の人々の古代復興によっていることなども、実例を紹介した。古都奈良の文化財を私たちは江戸時代人の目で見せてもらっている。

5月11日

## 法隆寺の文学

浅田 隆

法隆寺にかかわる著名な作品を紹介し、作品群から伝わってくる法隆寺空間の意味を考えた。

「法隆寺と文学」と聞くと誰もが連想するのは、正岡子規の「柿食えば鐘がなるなり法隆寺」だろう。が、作品は良く知られていてもその背景の事情を知る人は少ないようなので、子規の当時の健康状態や「柿と鐘」の原体験、奈良と柿の配合の発見などを解説。

ついで子規の高弟高浜虚子の写生文「斑鳩物語」に描かれた法隆寺を取り巻く明治四十年の春の風景を紹介し、写生文の手法について解説。

奈良を愛し歌い続けた會津八一の初来訪時の事情とともに、法隆寺や聖徳太子への思いをこめた歌を解説・鑑賞し、會津八一の奈良への姿勢を説明した。

以上の作品解説を踏まえ、「なつかしい」という言葉の意味を説明し、多くの人々が奈良に感じている思いの源泉について触れた。

6月8日

## 東大寺別当光智と藤原清廉 - 中世東大寺の成立 -

丸山 幸彦

10世紀という時代は東アジアにおける古代律令国家群の解体にともなう、新しい中世の時代への出発点であった。古代律令国家の国家寺院として作られた東大寺という巨大寺院も、この10世紀という時代、設立の母胎となった律令国家の解体のなかで大きな試練を迎える。しかし、東大寺は没落することなく、以後中世寺院として歩いていくことに成功する。なぜそれが可能であったのかについて、10世紀に生きた光智という一人の東大寺の僧侶を取り上げて考えてみた。光智は10世紀なかば、長期に渡り東大寺別当をつとめ、中世東大寺の経済的な基盤を作りあげていく。具体的には、猫の怖かった長者として『今昔物語』にも登場してきていることで有名な大和・伊賀・山城に広大な所領をもつ藤原清廉に象徴される在地の有力豪族らとかかわりながら、伊賀国を中心に荘園の確保・組織化につとめる。このようにして作りあげられた東大寺領荘園が、中世において衰滅することなく、東大寺が大寺院として存続していく経済的な基盤になっていく。

7月13日

## 城壁の都市北京

森田 憲司

北京は街自体が世界遺産に登録されているわけではないが、その周辺部を含めれば、7つの世界遺産を有し、中国の世界遺産の2割にあたる。その一方で、北京市区内の遺産は明・清両王朝に関わるものである。これは都市としての北京の歴史に由来する。すなわち、北京は13世紀、元の時代に建設された大都を直接の起源としており、明代に現在の形となったのであった。この講演では、城壁に囲まれた都市としての北京の歴史を概観するとともに、城壁の形や都市に住む人々の心のアイデンティティーとしての城壁の果たす役割について、平遥や南京など、城壁が世界遺産に関係する他の都市の例と比較しつつ述べた。

8月10日

## 聖なる空間の創造

—首里城・斎場御嶽をめぐる「ゆいむん」の思想と琉球王—

堀 信行

琉球王は政治権力の首長として自らを太陽王と称した。一方、王権の源泉は精神世界とも結びつき、それを生む装置として首里城—斎場御嶽—久高島という太陽を意識した東西軸と海の楽土ニライカナイからの自然の恵みもの「ゆいむん（寄り物）」思想を背景に壮大な宗教的な儀礼空間を創設した。とくに尚円王はノロ（祝女）組織を再編し、ノロの最高位であり、国王のオナリ神となる聞得大君を設けた。聞得大君の霊性を得るための就任式「御新下り」は、首里城の園比屋武御嶽の拝みのあと斎場御嶽で行われた。斎場御嶽の空間構成は、首里城正殿の後方（東方）の御内原（国王の私的で女性中心の居住領域）を模している。正殿一階の下庫理に対し二階は御内原に属し大庫理といった。王の玉座は東を背に西を向き、公の政治が行われた。斎場御嶽での御新下りは、知念ノロと、東方海上の聖なる久高島の外間ノロが同席し、久高からの敷き砂の上で行われた。このような空間構成の下で聞得大君の霊性が生まれ、それを介して王権の神聖さが獲得された。

9月7日

## オーストラリアの奇妙な生き物と そこにやって来た人々

高橋 春成

奇妙な動物の宝庫、オーストラリア。私たちの常識では、哺乳類といえば、母親の子宮内で育った子が母乳で育てられる動物がイメージされる。ところがオーストラリアには、卵を産む哺乳類がいる。ハリモグラやカモノハシである。

彼らは爬虫類のように卵を産み、母親は鳥類のように卵を温めて孵す。やわらかい殻につつま

れた卵から孵化した子は、その後母親の乳腺から出る乳によって育つのである。

単孔類とされるこの哺乳類は極めてユニークであるが、カモノハシはさらにその容姿も独特である。18世紀末に、カモノハシの毛皮標本がヨーロッパに最初に紹介されたときは、剥製師がカモ（鳥）の頭と脚に他の哺乳類の体を縫い合わせて作った「まやかしたもの」だと騒ぎになった。

こんな奇妙な生き物の世界に人がやってきたのは比較的新しい。アボリジニといわれる先住民は、数万年前の水河期に、狭くなった海峡を克服してこの地にやってきた。

## 〈5〉第17回 桜井市生涯学習シリーズ 奈良大学教養講座

〈開講年〉1992年

〈テーマ〉郷土を学び、新しい時代を知る

〈募集定員〉100人（全5回）

〈会場〉まほろばセンター

〈共催〉桜井市教育委員会・奈良大学教養部

5月18日

### 崇神天皇陵と応神・仁徳天皇陵と －古代の天皇の姿－

水野正好

桜井市域は日本の古代史の桜舞台である。早くに設置させた“山辺の道”や“上ツ道”にそって、倭国女王ヒミコやトヨ、崇神・垂仁・景行天皇の都がつくられ、膨大な数の古墳がこの地域で誕生する。なぜこの桜井の地なのか、どのようにこの地が歴史の桜舞台となったのかを具体的に話し、理解を求めた。その内容は以下の通り。

- 1・2 崇神天皇に先立つ倭国女王トヨ・ヒミコのすがた
- 3 倭国女王ヒミコ・トヨの都は大和国大和郷にあるか
- 4 倭国女王ヒミコの、トヨの墳墓は、山辺・上ツ道にみられるか
- 5 倭国女王のもとには中国・朝鮮半島からの刀剣が
- 6 景初3年の使節が持ち帰った膨大な文物…銅鏡を例に
- 7 倭国女王に貢進されていた南海の貝、玉、白銅でもつくる
- 8 崇神天皇、磯城瑞籬宮に都を移す、女王とは異なる政治
- 9 崇神天皇と出雲氏と、崇神天皇と神々の社、その政策
- 10 崇神天皇、前方後円（方）墳を各地に、地方に至る至宝と船舶と
- 11 前方後円（方）墳の定型化、崇神天皇陵はその代表
- 12 仲哀天皇・神功皇后の朝鮮半島出兵、授ける武内宿禰
- 13 仲哀天皇陵を築く神功皇后、武内宿禰は葛城氏の祖
- 14 神功皇后と葛城氏の提携、難波への都移り、大阪湾の開発

- 15 朝鮮半島から運び込まれる大量の鉄
- 16 朝鮮半島から運びこまれる牛馬と金色に輝く鞍――一気にひろがる
- 17 大阪湾岸港津・大道・都の整備で働く人々―大量の塩生産へ
- 18 朝鮮半島より硬質陶器製作技術導入、全国に拡る酒宴の器
- 19 応神天皇陵、最大の土量を盛り上げて、葺石と埴輪と
- 20 世界最大の仁徳天皇陵は1日2000人、工期16年8ヶ月、計680万人を要して

6月15日

## クーデンホーフ＝カレルギーと欧州統合

田中文憲

現在ヨーロッパは欧州連合（EU）27カ国体制となり、さまざまな面でアメリカに対抗できるまでになった。このヨーロッパ統合の発想は第二次世界大戦以前にすでに存在した。興味深いことに、この統合運動を「パンヨーロッパ運動」として展開したのが、日本人を母として東京に生まれたリヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーという人物である。

クーデンホーフ＝カレルギーが「パンヨーロッパ運動」を起こすきっかけは、第一次世界大戦である。この悲惨な戦争の原因は国民国家の成立にあると考えた彼は、ヨーロッパが二度と大戦争を起こさないためには国境を無くし、「ヨーロッパ合衆国」を作る必要があると考えた。「パンヨーロッパ運動」は大きな反響を呼んだが、やがてドイツにヒトラーが現れ、第二次世界大戦が始まることでいったん終息してしまった。しかし、「パンヨーロッパ運動」は第二次世界大戦後、再びチャーチルやジャン・モネなどを中心にヨーロッパを統合することで平和を達成しようとする動きに受け継がれてゆくこととなった。

7月27日

## 円滑な人間関係を築くコミュニケーション

大谷麻美

本講座では、コミュニケーションの形式や方法が文化によってどのように相違するのかを具体的な例を通じて概観し、コミュニケーションを通じて円滑な人間関係を築くためにはどのような点に留意すればよいのかを考察した。

まず、コミュニケーションとは何か（そのチャンネルや機能）を簡単に解説し、本講義ではその中の対人関係構築・維持の機能を中心に議論をすすめた。集団主義的文化に属するとされる日本語母語話者と個人主義的文化に属するといわれる英語母語話者とはコミュニケーションを通じての対人関係の取り方がどのように異なるのか、また、同じアジア圏で同じ集団主義文化に属するとされる韓国人と日本人とはどの様に相違するのかを概観した。さらに、同じ日本の文化内でもジェンダー、世代、地方などによりコミュニケーション方法に相違がみられる例を具体的に提示した。そして、裁判員制度や外国人介護者導入などの新システムを巡って今後日本で生じ

るであろうコミュニケーションに関する問題を予測し、その対処方法を考察した。

9月21日

## 日本の少子化と中国の一人っ子政策 －「生産財」と「消費財」の視点から－

羅 東 耀

日本と中国はみな人口問題を抱えている。日本は人口の減少に悩まされているが、中国は人口の増加に困っている。両国の人口問題はなぜこんなに違うのであろうか。

日本はこれまで主として女性の高学歴と社会参加、中国は主に儒教思想の影響にそれぞれ焦点を当てて各自の原因を明らかにしようとしている。オーストラリアの社会人口学者コールドウェルは利益の世代間の流れに着目して、利益が子供から親へ流れる社会は多産で、その逆は少産であると指摘している。日本では子どもの多くが親の心を支える「消費財」となり、中国の農村部では子どもが親の老後生活を扶養する「生産財」となっている。この「消費財」と「生産財」の違いは性質の異なる人口問題を引き起こしていると思われる。

10月19日

## 文学の中の老い －認知症をめぐる－

大 町 公

戦後日本の〈老いと介護〉の問題を考える際、これまでは、二つの「介護文学」作品で、つまり1972年刊の有吉佐和子『恍惚の人』から1995年刊の佐江衆一『黄落』へ、という形でなされるが多かった。それには十分な理由が考えられる。

『黄落』の中では、米寿の「母」は回りの者への迷惑と、みずからの認知症の進行を恐れ、絶食を始め、〈尊厳死〉の道を選ぶ。著者の佐江もエッセイ集『老い方の探求』の中で、「自分も母のように死にたい」と、この死を肯定している。

もう一つの道も考えなければならない。〈認知症を生きる〉という道である。これは、2003年、小沢勲『痴呆を生きるということ』（岩波新書）出版以来、評価され出した。文学作品としては、昨今、耕治人（こう・はると）の「命終三部作」が脚光を浴びている。認知症の妻を夫が介護する私小説である。それらの作品から、この問題を考えたい。

## 〈6〉第16回 都祁生涯学習シリーズ 奈良大学教養講座

《開講年》1993年

《テーマ》人・自然・暮らし－生きるための知恵

《募集定員》60人（全4回）

《会場》都祁交流センター  
《共催》奈良市都祁公民館・奈良大学教養部

6月1日 古代の「イワクラ-磐座」とそのまつり

水野正好

奈良の東山山中には巨石、巨石、巨石。そのさまざまな姿は、私たちに神秘、感動を呼び起してくれます。ひとびとが手を合わせるだけの石もあれば、メ縄（しめなわ）がかけられ、時には供え物がそえられた石もあります。一層丁寧に玉垣をめぐらしたり、小鳥居を備えたり、常々掃除され清浄の想いの行きとどいた石もあります。その到達するところ、祀る神官、社殿、祭場まで備え多くの人々に信仰される巨石すらあります。

今日でもこのように人々から崇められる巨石の歴史を古代の史料や考古学から追求し、古代の人々がどのように巨石を理解していたのか、また、どのような歴史の流れをもって今日の姿に至ったのか、具体的にのべることで人間の心性の深さに迫るようつとめた。古代の史料に見える磐座（いわくら）、磐境（いわさか）の実際を考古学から復原し、どのような場にある磐岩がそうした信仰の対象になるのか、どのような供物や祭具でまつられるのか、どのような神が示現するのか、たのしい巨石をめぐる想いを語り、多くのお聞き下さる方に理解を求めた。

6月22日 地球温暖化とバイオエタノール

藤原剛

今や地球温暖化は異常気象の増加など日常生活にも様々な影響が及ぶほど深刻で、緊急に対策を採ることが必要になっている。温暖化の原因の第一は大気中の二酸化炭素の増加である。二酸化炭素の発生量を減らすにはエネルギーの使用量を減らす事が最も有効であるが、二酸化炭素の発生量の少ない燃料の利用も重要である。

バイオエタノールは再生可能な資源で、二酸化炭素の発生量が少なく環境への負荷が小さいとして、近年特に注目されている燃料である。バイオエタノールが世界で最も普及しているブラジルでは新車のほとんどがエタノール燃料車になっているほどである。その一方で、原料のサトウキビやトウモロコシが食糧にではなくエタノールの生産に回される結果食糧危機の原因の一つになっていること、生産拡大のための農地の開発によって自然環境の破壊が進んでいることなどマイナスの影響も目立ってきている。ここではバイオエタノールの効用と問題について考える。

7月6日

## 生涯学習時代と図書館利用法 －日本と世界－

原 田 安 啓

公共図書館は、だれでも、いつでも、無料で使える施設で、現在は日本全国すべての市に設置されています。町村でも過半数の自治体にあります。生涯学び続け、自己実現を図りながら、生き生きと暮らし続けるために、図書館を上手に利用しましょう。

図書館には図書や雑誌、新聞そして地域の暮らしに役立つ情報が備えられているほか、CD、DVD、インターネットなどの利用もできます。また、図書館は日本国内だけでなく世界中の図書館とも繋がっています。

図書館は子育てに最良の場所（TVやゲームで育児するのではなく）であり、長じて図書館を友として、学習・調査・研究に役立て、就職しては図書館利用のスキルを上げて、職業の維持や暮らしに役立て、老いては教養に磨きをかけ、図書館を通じてコミュニティ活動を深め、若返りの手段とする。

生涯をかけて図書館を友とすることほど充実した人生や暮らしは無いと思います。

7月20日

## ジャポニスム －印象派と浮世絵を中心に－

田 中 良

19世紀後半、開国とともに日本の美術がヨーロッパに渡り、様々な分野に多大な影響を与えた。特にフランスのマネやモネなどの印象派の画家たちは、北斎や広重の浮世絵のもつ新しさに驚き、自分たちの絵に採り入れていった。西洋における伝統的な絵画技法といえば、遠近法、明暗法、肉付け法であったが、浮世絵はそうしたものは全く別の、平板化、俯瞰構図、クローズアップなどの技法をもっていて、そうした技法がまず彼らを驚かせた。しかし何よりも彼らを驚かせたのは、浮世絵のもつ明るさであった。印象派の画家たちは、自分たちもより明るい絵を描くため、新たな技法を開拓した。ゴッホは、より明るい風景を求め、暗いパリを去り、日本に似た明るさをもつアルルに旅立った。こうした技法上の新しさに加え、浮世絵の風景画に表れた日本人のもつ自然観もまた彼らにとって新鮮なものであった。人間中心主義の西洋と自然中心主義の東洋という対比が北斎や広重の風景画を通して浮き彫りにされたのである。こうした技法と自然観の観点から「ジャポニスム」を検証した。

## 〈7〉第11回 こおりやま市民大学

《開講年》1998年

《テーマ》歴史・文化や今日的課題に学び、21世紀を夢と希望に満ちた人生に

《募集定員》100人（全6回）

《会場》大和郡山市中央公民館

《共催》大和郡山市中央公民館・奈良大学

6月7日

### 「伊勢物語」の美術 - 図様の継承と変容をめぐって -

塩出 貴美子

平安時代に成立した「伊勢物語」は、その後まもなく物語絵として描かれるようになる。残念ながら平安時代の作品は現存しないが、鎌倉時代には絵巻の断簡が遺り、室町時代になると絵巻のほか冊子、扇面、屏風などの作品も登場する。また近世においては、工芸品の意匠としてもしばしば用いられている。ここでは、それらの作品から第六段「芥川」の場面及び第九段東下りの「八橋」の場面を取り上げ、その図様の継承と変容の様相を探る。前者では、「男」が「女」を背負って「芥川」の辺を行く図様が一般的であるが、そこにも微妙な相違が生じていること、また幾つかの作品は男が「あばらなる蔵」の戸口で警護する場面を描くこと、さらに中世の絵巻で成立した図様が俵屋宗達にまで影響を与えていることなどを検証する。後者では、この場面を構成する主要モチーフである「男」「八橋」「かきつばた」「乾飯」などがどのように描かれているかを確認しながら、それぞれの作品の特質を考える。

6月14日

### 吉野宮滝への道 - 菅原道真「宮滝御幸記略」をめぐって -

滝川 幸司

昌泰元（898）年冬、前年に天皇の位を息子・醍醐に譲った宇多上皇は、多くの近臣を引き連れ、吉野宮滝への御幸を試みた。この時の状況を、道真が書き残している。但し、残念なことに記録そのものは失われてしまい、現在は、「扶桑略記」という史書に省略した形で残存している。「宮滝御幸記略」と仮称しているこの記録を読み解いていくと、断片的ではあるが、奈良、吉野への行程を追いかけることができる。また、この御幸が、用意周到とはとてもいえない無計画さを持っていたことも確認できる。そこには、本来天皇になるはずではなかった、宇多上皇の特殊な事情があったのではないかと考えることもできる。

6月21日

## 奈良県における 『名勝写真帖』の編纂をめぐる

三木理史

本講座では、奈良県の刊行した『奈良県名勝写真帖』（1910年、以下Ⅰとする）と『大和名勝写真帖』（1915年、以下Ⅱとする）の2冊の名勝写真帖をとりあげ、Ⅰについて①その刊行契機となった陸軍特別大演習と行幸の奈良県における意味、②奈良県にとって最初の府県写真帖の刊行過程、③その撮影や印刷をめぐる受注関係、Ⅱについて④刊行経緯の解明、⑤先行するⅠとの関係、を各々課題として報告を行った。

まず、①について1908年の陸軍特別大演習は、日露戦後の全国的関心の高まりから、大規模な奉送迎行事として実施した。②について前例の茨城県の奉送迎内容を吏員派遣によって詳細に調査し、写真帖も「景勝地写真」集として編纂した。③について写真撮影技術は、通説的に日露戦後地方都市にまで普及したとされるが、山間町村ではそれに対応できないところがあった。印刷では京都で実績をもつ便利堂が担当した。

④についてはⅡの「題辞」ではその経緯や背景は不明だが、印刷・発行年から1915年の東宮行啓と即位大礼のいずれかを契機に編纂した公算が高い。⑤についてはⅡの写真全体の約4分1がⅠと共用関係にあり、また内容で約2分1がⅠと対応関係にあり、両者の相互関係は明らかであった。特に共用関係にある写真の大半が天候や眺望に影響されがちな遠望風景写真で、そうした撮影上の困難な写真を共用していた可能性が高い。

6月28日

## ラーメンから日本と中国の 文化交流を考える

芹澤知広

社会的・文化的現象について学問的に語ることはとてもむずかしい。人びとが親しんでいる「ラーメン」についてはなおさらである。議論をするうえでは、その言葉が、誰の使っているものであるのかに注意を向けなければならない。学者が使う通文化的な概念としての「ラーメン」は、麺類をスープで食べるものであるが、一般の人々に使われている「ラーメン」（日本）、「拉麵」（香港）、「粉麵」（ベトナム南部の華人社会）などの言葉は、それぞれの社会・文化のなかで特別な意味を帯びている。

日本と中国の文化交流を考えるうえで「ラーメン」が興味深い材料となる理由は、ラーメンが中国から日本へもたらされ、そして近年日本から中国へと逆輸出されるなかで、その実体や付与される意味に変容が生じたという点にある。香港で「拉麵」は、中華料理の麺料理ではなく日本料理の代表的なメニューであり、その蘊蓄を語るのが今やミドルクラスの嗜みとなっている。

7月5日  
ペルー・アンデスのことば ケチュア語

青木芳夫

ペルーは、日本から見れば、地球のほぼ裏側に当たる。成田空港を飛び立った飛行機は、20時間あまりの長旅のあと、真夜中の首都リマに到着する。さらに、インカの古都クスコには翌朝早々に国内便に乗り換えなければならない。実に遠い。しかし、日本の多くの人々は、世界遺産のマチュピチュ遺跡やナスカの地上絵に憧れを抱き、ペルー・ファンである。いわば、われわれ日本人はペルーの人々にとってすでに潜在的な「遠くの隣人」なのである。この絆がいつそう確かなものとなるように、この講座では、クスコ市や「聖なる谷」を初めとするペルー・アンデスの人々のくらしやことばを、日本のそれらとの間に共通点を探し求めながら、紹介してみた。たとえば、「聖なる谷」の一角はジャイアント・コーンの産地として有名だが、日本の白川郷では豪雪の季節にはカラフルなカラー・コーンを花びんに飾ったというし、アンデスの先住民族のことばであるケチュア語は、日本語やアイヌ語と同じように、接辞つまり「てにをは」が大事な役割を果たし、語順も動詞が最後に来ることばの一つなのである。

7月12日  
100周年をむかえたブラジル移民

池田 碩

ブラジルへの移民、そして逆移民

最初のブラジル移民は1908（明治41）年、笠戸丸で渡航した791名であった。大陸で頑張れば、数年で大金を得、故郷に錦を飾れるとの勧誘のもとに出国したが、実際は1888年の奴隷制廃止に伴ったコーヒー農場などへの新たな労働力確保のための受け入れであり、両者の思惑は最初からまったく異なっていた。このため過酷な労働を強いられることからのスタートになったが、それでも第二次世界大戦までのほぼ30年間に19万人もが移住した。

戦後は1952年、大陸からの引揚者や新たに大陸への願望を抱いた青年たちにより再開された。開拓はアマゾン川周辺を含む広域に拡大した。そうして最後の移民船が出た1973年までのほぼ20年間に5万人が移住した。

1980年代に入ると日本経済は安定しだし、さらに80年代後半には高度成長期に入ったが、ブラジル経済は不況であった。

このような状況下で、日本政府は1985年1世のみに限定して日本への出稼ぎ者を認めることにし、86年から開始した。さらに89年から2・3世にまで拡大した。その結果2008年までの22年間に30万人を受け入れた。これは日本から出国した総移民数24万人を超えている。つまり「逆移民」の状況に至ったのである。

## 移民100周年記念行事

2008年、移民開始から100年を迎え、日本とブラジル両国で記念行事が行われた。

日本では、神戸港から笠戸丸が出港した4月28日を中心に、ブラジルでは笠戸丸が6月18日サントス港に到着しサンパウロからさらに各入植地へと向かった時を中心に、皇室からは皇太子殿下が御訪問され各地で盛大に式典が挙行された。

私も、神戸とブラジル各地での行事に参加し帰国した。両国での記念行事の状況と移民社会の現状について報告する。

## 〈8〉公開講座フェスタ2008

〈加盟年〉1999年

〈奈良大学担当開講日〉11月7日（金）

〈講師〉鎌田道隆 教授

〈演題〉江戸時代の大坂は魅力的な都市だった

〈募集定員〉180人

〈会場〉大阪府立文化情報センター

〈主催〉阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット

### 【(2) に分類される講座】

## 〈1〉教職員のための夏の公開講座

〈開講年〉2003年

〈奈良大学担当開講日〉8月7日（木）

〈募集定員〉50人

〈会場〉奈良大学総合研究棟

〈後援〉奈良県教育委員会

## 肖像写真を駆使したイメージ戦略

－幸田文の場合－

藤 本 寿 彦

明治の文豪、幸田露伴の次女として誕生した文は、父を書くことで作家デビューした。昭和20年8月15日の敗戦を契機に、日本は文化国家として再生していくのだが、露伴はその象徴的存在になる。そこで、メディアは戦後日本の象徴を書く存在として、幸田文に注目した。このような視線の中で幸田文は、父を書くに相応しい自画像を作り上げ、メディアに発信した。

だが、作家デビューから3年後、筆を断つと宣言する。その宣言には求められた露伴ではなく、

出来たら「何でも書ける人間」になって戻りたいという願望が語られている。昭和29年、この願望通り、幸田文は露伴から自立した作家として再び活動を始める。その時、新たな作家イメージを演出する肖像写真を、メディアに発信していく。その一方で露伴の娘というイメージを、みずから壊す肖像写真を提示していった。このような振る舞いを紹介しながら、流行作家の誕生について考えてみたい。

## 教職課程で学生は何を学ぶのか - 学ぶ立場から学び教える立場へ -

中 戸 義 雄

教員免許取得者の大学卒業者に占める割合は教員養成大学・学部で80%、一般大学で10%程度であり、毎年6万人前後が新たに教員免許を取得している。また、いわゆるパーパーティーチャーは500万人程度と推定され、大学卒業（学士号）が要件になる資格・免許のうち、最も取得数が多く、最も役に立たないものといわれることさえある。では、教師にならなければ教職課程で学んだことは意味をもたないのか。

本学の教職課程では、学生自身が思考し、発言し、他の学生とも関わりながら進める授業を実践している。そこで彼らは自らの限定されたものの見方に気づき、異なる価値観に出会い、他者とのコミュニケーションの難しさと面白さを経験する。教職課程での授業や教育実習などの体験を通して、彼らは「おとなになること」の意味を考え始める。そして、学生はたとえ教師にならなかったとしても、こういった経験から教育や学校に関するオピニオンリーダーになる可能性をもちうるのである。

### 【(3) に分類される講座】

#### 〈1〉奈良大学・飛鳥保存財団共催事業

〔第2回〕飛鳥周遊リレーウォーク

《開 講 年》2007年

《開 講 日》5月17日（土）

《テ ー マ》～世界遺産登録に向けて～飛鳥・藤原京とキトラ古墳の世界  
“飛鳥”古代寺院遺跡を巡る

《講 師》上野 誠 教授

水野正好 名誉教授

《募集定員》200人

《会 場》近鉄飛鳥駅～飛鳥資料館

## 〈2〉奈良大学・南都銀行産学連携プログラム

《開講年》2007年

《テーマ》歴史・文化活動を通して、地域の活性化に貢献

《募集定員》各回40人

● 平城支店ロビー子どもフェスティバル

《開講日》8月25日（月）

《公演》『紙芝居』奈良大学附属幼稚園ボランティアサークル

【人形劇】人形劇だいぶつ

《会場》平城支店ロビー

● 平城支店ロビーセミナー

《開講日》10月24日（金）

《講師》丸山幸彦 教授

《演題》中世の奈良とお水取り

《会場》平城支店ロビー

## 〈3〉奈良大学・斑鳩町官学連携協力事業

《開講年》2007年

《募集定員》50人

《会場》斑鳩町中央公民館

【第2回】生涯学習講座

《テーマ》文化財への理解を深め、貴重さを認識する

回	開講日	演題	講師
1	10月25日（土）	斑鳩周辺の山城について	准教授 千田 嘉博

【第2回】地域家庭教育講座

《テーマ》地域住民の連帯意識の構築および地域社会の教育力の充実・向上

回	開講日	演題	講師
1	9月12日（金）	幼児から成人における発達臨床心理 「発達障害」について	教授 千原美重子
2	11月4日（火）	「ありがとう」「どうぞ」、日本人の忘れかけている思いやりのところについて	教授 喜多 俊幸

● 藤ノ木古墳シンポジウム

《募集定員》500人

《会場》いかるがホール

開講日	演題	講師・コーディネーター
11月1日(土)	史跡藤ノ木古墳開棺調査20周年 記念シンポジウム	教授 白石太郎

〈4〉奈良大学・生駒市連携協力事業

〔第1回〕市民カレッジ(教養講座)

《開講年》2008年

《募集定員》50人

《会場》生駒市北コミュニティセンター I S T A はばたき

《テーマ》大学と連携を深め、市民に学習機会を提供する

回	開講日	演題	講師
1	2月22日(土)	幕末政治と朝廷・幕府・藩	教授 佐々木 克
2	3月8日(日)	王政復古の政変	教授 佐々木 克